別記様式(第 3 条関係)

会議録

日　　時	令和 6 年 4 月 24 日（水）　14：00　～　15：30
会　　場	広葉交流センター　1 階　交流室 2
出 席 委 員	露崎史朗委員、愛甲哲也委員、矢部和夫委員、首藤光太郎委員、 森下徹委員（オンライン）、国本亜希子委員
欠 席 委 員	清水邦子委員
オブザーバー	田中厚志文化庁文化財第二課天然記念物部門調査官（オンライン）、 中堀等北海道森林管理局石狩森林管理署 主任森林整備官、 内田和典北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課 専門主任
市 出 席 者	吉田智樹教育部長、渡邉篤広エコミュージアムセンター長、畠誠主査、 小杉宇海学芸員、森田寿雄建設部都市整備課参事、 大西康文企画部都市計画課課長、土居裕之教育部社会教育課主査 （運営支援　渡辺 修株式会社さっぽろ自然調査館代表）
傍　聴　者	なし
会 議 次 第	1　開　　会 2　委員長あいさつ 3　議　　案 ・特別天然記念物野幌原始林保存活用計画素案について ・今後のスケジュールについて ・市民参加の取り組み ワークショップ、パブリックコメントの実施について 4　そ の 他 ・次回開催について 5　閉　　会

（1）会議及び会議録の公開について

※公開について了承され。傍聴者はなし。

（2）討議

〇素案の内容について

※「特別天然記念物野幌原始林保存活用計画素案」について、資料 1 と資料 2 に基づいて事務局から説明。

・**(委員)** p33 や p42 の目標とする森林が広葉樹林となっているが、この森林の特徴として一部トドマツが混交しているということを入れた方がよいのではないか。

・**(委員)** 明示した方が誤解を与えなくてよいし、入れるべきだと思う。

・**(委員)** 目標が混交林であるとまではしなくてよい。「トドマツを含む」程度の表記でどうか。

・**(委員)** ゾーニングについては各章で分かりやすく示した方がよいのではないか。4 章では 3 つのゾーンごとの保存・活用が分かりにくい。同じ内容があってもよいので、ゾーンごとの表記とした方がよいのではないか。

⇒ **(事務局)** 4 章はゾーンごとに表記していたが分かりづらいためまとめていた。ゾーニングを参照しやすくするため、巻末資料に地図を入れるなど工夫したい。

・**（委員）**ゾーニングは 1 章でいきなり出てくるが、2～3 章を踏まえて決めたという順が正しいのではないか。
⇒**（事務局）**区域の定義に合わせて 1 章で示していたが、現状と課題を踏まえて 4 章で示すというのが分かりやすいかもしれない。検討する。

・**（委員）**p. 20 の最初の指定当時の価値の中に③の追加指定時の価値が出てくるのはおかしい。2 に移すべきである。
⇒**（事務局）**ご指摘の通り修正する。

・**（委員）**p. 26「推移を期待」p. 34「期待される」とあるが、改めてこれでよいか矢部委員・露崎委員長に確認したい。P. 40 方針の「受動的な手法」もこれを受けての記述だが、これでよいか確認したい。
・**（委員）**「受動的な手法」でも、例えば知床では外来種の抜き取りなどはしている。「受動的な手法を基本とする」という表現に収めるのがよいかもしれない。

・**（委員）**p. 42 でモニタリングについて言及されているが、施策の中で出てきていない。現状変更等の行為の中にしか出てきていない。施策として先に書くべきではないか。現状変更等の行為には回数など具体的に書いてあるが、すでに想定されているのであれば計画として書くべきではないか。
⇒**（事務局）**現状変更等については数量を明確にするということだったので、このような形での表記となった。具体的に書けることについては施策に入れることを検討する。予算や担い手の問題もあり、すべて具体的に記述するのは難しい面もある。
・**（オブザーバー）**この計画はマスタープランという位置づけだが、実際にはこれを受けてアクションプランをつくらないと思われるので、その要素を入れることになる。モニタリングはしっかり書いてほしいと思っている。これまでの調査も踏まえ、この調査は継続するべき等の判断を先生方にしていただきたい。予算や担い手の問題はあると思うが、計画に明記してあればやりやすいのではないか。
・**（委員）**モニタリングは何をするのかはっきりした方がよい。項目を立てて、遷移・植生構造を見られるようにしていただけるとよい。少なくとも、ここだけは明らかにするという点を明示しておけばよい。耕作放棄地は長い時間をかければ戻るが、どの程度かかるかは分からなく、モニタリングが重要となる。
・**（委員）**見直しを今後していくということなので、次回見直し時にどうなっているのかを確認して検討するということもありうる。
・**（委員）**5、10 年後にどうなっているのかを見られるようにするのが大事である。
・**（委員）**p. 49 現状変更等では保全活動についても入っているが、これも計画にはない。10 年間何もしないのもどうかと思うので、計画にあってもよい。
⇒**（事務局）**見直しは 10 年ごとに必ずするが、その間何もしないわけではなく、何かあれば諮問機関からの意見を踏まえて変更することができる。シカ対策や森林再生については市が勝

手にできるというものではなく、モニタリング結果を基に必要に応じて委員会も設置して検討することによって実施できる。
・**（委員）**エゾシカの影響については特に注視する必要がある。近々で対策が必要になる可能性もある。被害に気づいた時では遅いです。
・**（委員）**p.43 の表にモニタリングについて書いてあり、そこに具体的な計画を書くべきではないか。

・**（委員）**p.45 の役割分担の記述はこれでよいのか。特に幼稚園については教育関係の取り組みに触れられていない。また研究機関と学識経験者の表記の違いも気になる。内容を推敲した方がよい。
・**（委員）**幼稚園で保全活動への参加などもあると思う。教育機関としての気づきなどが重要で、CEPA という考え方もあり、幼稚園の役割に入れたらよい。
※CEPA（Communication, Education and Public Awareness）：生物多様性等の自然の価値と持続可能な資源利用のあり方を次世代に伝えるための「対話」「教育」「普及啓発」などの活動
・**（委員）**活動の中で大学の先生に動植物について教えてもらうなどはしている。
⇒**（事務局）**役割分担については、立場ごとに役割を記述し、それぞれの立場に該当する機関を例示するような形に表記を修正したい。

〇今年度のスケジュールについて
　※今後のスケジュールとワークショップ・パブリックコメントの実施について、資料 3・資料 4・資料 5 に基づいて事務局から説明。

・**（委員）**ワークショップは 3 回とも参加者は固定なのか。
⇒**（事務局）**そう考えている。
・**（委員）**参加者は 15 名程度を予定しているということだが、意見交換の時間がそれぞれ 20～30 分と短いのではないか。ワークショップは計画のための協働作業という位置づけからすると、一緒に作り上げるという考え方が重要である。
・**（委員）**パブコメは、概要版は用意するのか。長い計画は見られないので、概要版を作る方が意見は出やすいのではないか。
⇒**（事務局）**概要版を作る形で検討したい。
・**（委員）**パブコメは周知が重要で、市のホームページ等を用いて見やすくする工夫が必要である。ウェブでの公開は見る人が多いので、広報が重要である。
・**（委員）**SNS は市で活用していないのか。幼稚園の保護者にも知らせるなど工夫をしてほしい。
⇒**（事務局）**市の LINE アカウントはある。登録者へのプッシュでの情報配信もあるので、活用を考えたい。
・**（委員）**年配の方は、ホームページなどはあまり見ない。デジタル以外の方法も使って、現実的な意見が出るようにすればいいと思う。

・**（委員）**エコミュージアムセンターでも計画策定と絡むような原始林の関する企画展などを検討していただきたい。

（3）その他

・**（事務局）**次回の委員会は 8～9 月で検討している。